

諮問日：平成30年3月13日（平成29年度（最情）諮問第90号）

答申日：平成30年8月24日（平成30年度（最情）答申第28号）

件名：問研起案の成績分布が分かる文書の不開示判断（不存在）に関する件

## 答 申 書

### 第1 委員会の結論

「70期間研起案の成績分布が分かる文書」（以下「本件開示申出文書」という。）の開示の申出に対し、最高裁判所事務総長が作成し、又は取得していないとして不開示とした判断（以下「原判断」という。）は、妥当である。

### 第2 事案の概要

本件は、苦情申出人からの裁判所の保有する司法行政文書の開示に関する事務の取扱要綱（以下「取扱要綱」という。）記第2に定める開示の申出に対し、最高裁判所事務総長が平成30年1月17日付けで原判断を行ったところ、取扱要綱記第11の1に定める苦情が申し出られ、取扱要綱記第11の4に定める諮問がされたものである。

### 第3 苦情申出人の主張の要旨

本件開示申出文書が本当に存在しないかどうか不明である。

### 第4 最高裁判所事務総長の説明の要旨

司法研修所においては、各司法修習生が作成した問研起案（問題研究をする起案をいう。以下同じ。）の評価は行っているものの、その評価結果は当該司法修習生に対する分野別実務修習の成績評価の一資料として使用されるものによらず、問研起案の成績自体の分布を独立して把握する必要がないことから、成績の分布を示した文書は作成し、又は取得していない。

### 第5 調査審議の経過

当委員会は、本件諮問について、以下のとおり調査審議を行った。

- ① 平成30年3月13日 諮問の受理
- ② 同日 最高裁判所事務総長から理由説明書を收受

③ 同年5月25日 審議

④ 同年7月20日 審議

## 第6 委員会の判断の理由

- 1 最高裁判所事務総長の上記説明によれば、各司法修習生が作成した問研起案の評価は行っているものの、その評価結果は当該司法修習生に対する分野別実務修習の成績評価の一資料として使用されるものにすぎず、問研起案の成績自体の分布を独立して把握する必要がないことから、成績の分布を示した文書は作成し、又は取得していないとのことであり、問研起案が修習の一環として行われるものであることを踏まえて検討すれば、このような説明の内容が不合理とはいえない。そのほか、最高裁判所において、本件開示申出文書を保有していることをうかがわせる事情は認められない。

したがって、最高裁判所において本件開示申出文書を保有していないと認められる。

- 2 以上のとおりであるから、原判断については、最高裁判所において本件開示申出文書を保有していないと認められるから、妥当であると判断した。

### 情報公開・個人情報保護審査委員会

委員長 高橋 滋

委員 久保 潔

委員 門口 正人